



ユーザー様の声 豊島区立目白小学校 様

21世紀の教育の情報化に対応



豊島区立 目白小学校
副校長 大野 一美 様

DATA

設置時期: 2014年8月
導入製品: AOI-SPCM-UDS
インターフェース AOI001-MIF-001
設置教室数: 31教室

Q: 電子黒板導入前の不安はありましたか？

A: 不安というよりも、期待の方が大きかったと記憶しています。ただ、使い方についての不安はありました。しかし、電子機器に実際に慣れることで、不安は解消し、若手もベテランも関係なく使えるようになりました。

Q: TV型電子黒板から、プロジェクター式電子黒板になったことで、授業の変化はありましたか？

A: 教員や児童が授業の中で、頻繁に使うようになりました。例えば、理科の授業の場合、子どもたちがタブレットを持って外に出て、「春」探しをテーマに、写真を撮ってきました。その映像をプロジェクターで投影し、他の児童に提示ができました。子ども達の考えや、やったことを共有・比較しやすくなりました。これは大きいと思いますよ。

また、教師の手元を見せたいとき、これまでは児童を前に集めていましたが、児童は自分の席で、教師の手元を見つつ、全員で共有できるようになりました。

さらに、TV型からプロジェクター型にしたことで、教室を広く使えるようになりました。

Q: 先生方の授業準備の手間は減りましたか？

A: 手間が減るというより、授業の幅が増えました。機器の設定の意味でいうと、TV型のときは、複数の配線をしなければいけませんでした。今では、タブレットを持っていき、立ち上げて、認識させればプロジェクターが映し出すので、簡単にすぐ使えるようになりました。さらに、プロジェクターの投影位置を左右に動かせるということで、使い勝手は何倍もよくなりました。今では、教員は、タブレットを持って授業に行き、授業で頻繁に活用しています。国語ならば、挿絵で学習を進めたり、児童のノートを投影したりしています。無線LANでタブレットがつながるようになったことも大きいです。

Q: 慣れるためにこういった取り組みをされましたか？

A: 機器に堪能な教員による勉強会をやりました。その後は、実際に使ってみて疑問があれば説明するという方法を取りました。それがお互いの情報共有にも繋がりました。また、公開授業のときに電子黒板を積極的に使い、保護者にも見ていただきました。



ユーザー様の声 学校法人 海城学園 様

電子黒板で、授業はもっとアクティブに、もっと自由になる。



海城中学高等学校 理科(化学) ICT教育部
平田 敬史 先生

DATA

設置時期: 2015年8月
導入製品: AOI-SPCM-UDS
ナノホワイトボード
黒板/ホワイトボード専用
ラインアレイスピーカー AKS-8ML
設置教室: 24教室

Q: 電子黒板導入のきっかけを教えてください。

A: これまでも、授業で数分でも映像を見せたい時には、毎回スクリーンとプロジェクターを教室に持って行って行っていました。ただ、2,3分のためには準備時間が勿体無い。それで諦めることもできましたが、逆に1時間ずっと使い続けてみようと思いました。そうしたら、映像以外にも、見せたいものやコンテンツはいくらでもあることがわかりました。また、大学入試改革を機に、学内で「改革特別委員会」が組織されました。大学入試がどのように変わっていくか、情報を集め考える中で、ICTは根幹になる部分だと思いました。授業で、ICTをどのように使っていくかを考えた時に、2020年には、1人1台タブレットを持つと言われていますが、いきなりはできません。そこで、まず教員が慣れ親しんで、授業をすることから始めようとしたタイミングで、展示会で青井黒板を知り、電子黒板の導入に繋がりました。

Q: 導入後の先生方の反応はいかがですか？

A: 英語科の教員は、YouTubeで、大統領の演説の動画など、ネイティブの人の「生きている英語」をリアルタイムで伝えています。前のようなプロジェクターもネットワークもない授業は考えられない、すごく良いと言っています。

Q: 生徒さんの反応はいかがですか？

A: ビジュアルで見せられるので、食いつきが良いです。前を向く時間が圧倒的に増えました。化学は、変化を学ぶ学問なので、変化前後の写真を見るだけでなく、変化していく様子も見られるので、理解しやすくなったと言っていますね。でもそれも当たり前前の時代が来ますので、次の手を考えないといけないですね。

Q: 導入を検討されている学校様へのメッセージ

A: 電子黒板で何が出来るかを先に考えるよりも、何を実現したいかを先にイメージするのが大事です。実際に使ってみないとわからない部分もありますので、まずは使ってみて、その次にどうゆうことができそうか、いろいろな人とよく話して、アイデアを出し合うとおもしろいと思います。使える機器がないと、試行錯誤もできません。試行錯誤していく内に、アイデアが生まれます。授業はどのようにでも変わります。電子黒板は、授業準備の時間はかかりますが、見せられるものが増えるので、授業自体はスムーズに進み、そして今まで以上にアクティブになると思います！